

「見えるつながり」を大切に 家族と地域のおもいを引き継ぐ地方の学生たち

生活者研究センター
研究員 鈴木 優子

現在、日本では「地方創生」の政策や、地方のUターン、Iターン就職などを推進する活動もいっそう活性化しています。そんな中、地元で育ち将来も地方で暮らしていこうと考えている学生たちがいます。彼らはなぜ地元での暮らしを選び、どんな未来を描いているのでしょうか。東北・北陸・九州エリア3県に足を運び聞いてきた若者たちのおもいをレポートします。

- 調査エリア(青森・福井・宮崎)について
- 「見える、リアル」を大切にできる地方の若者たち
- 堅実で安心感のある将来、そして引き継いでいく役割
- 「見えるつながり」のある地方の暮らしから学ぶこと

【調査概要】

「地方の暮らし研究 若年世代の生活とコミュニケーションの視点から」

調査期間：2015年7月

調査方法：グループインタビュー調査

調査対象：宮崎県日南市在住19～22歳学生

対象者数：6人(男性3人、女性3人)

調査期間：2016年3月

調査方法：インタビュー調査

調査対象：青森県弘前市及び近郊在住19～21歳学生

対象者数：8人(男性4人、女性4人)

調査期間：2016年5月

調査方法：グループインタビュー調査

調査対象：福井県福井市及び近郊在住19～20歳学生

対象者数：8人(男性4人、女性4人)

調査エリア(青森・福井・宮崎)について

今回、調査に行ったエリア(図1)は女性の労働力率が高く(図2)、共働きの家庭が多いという共通点がありました。母親が働いている間は近所に住む祖父母に面倒をみてもらったという若者も少なくありませんでした。子育てもまわりの人たちと関わって助け合う家庭が多いようです。

また、福井では3世代同居率が高いことに加えて(図3)、幸福度も例年上位にランキングされています。

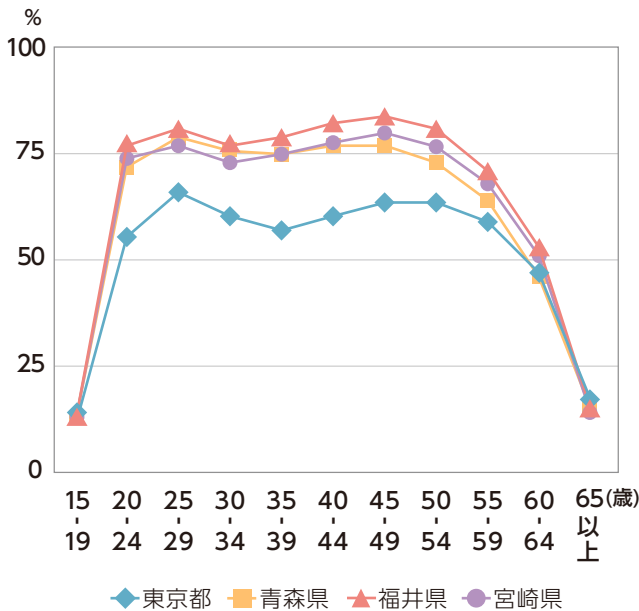
*47都道府県幸福度ランキング(2016年版)・・・寺島実郎監修、日本総合研究所編集、日本ユニシス総合技術研究所



	東京都 区都	弘前市	福井市	日南市
人口(人)	9,262,046	177,222	265,754	53,873
人口密度 (人/km ²)	14,895	338	495	100
百貨店・ 総合スーパー 店舗数	東京都内 123	青森県内 17	福井県内 16	宮崎県内 10

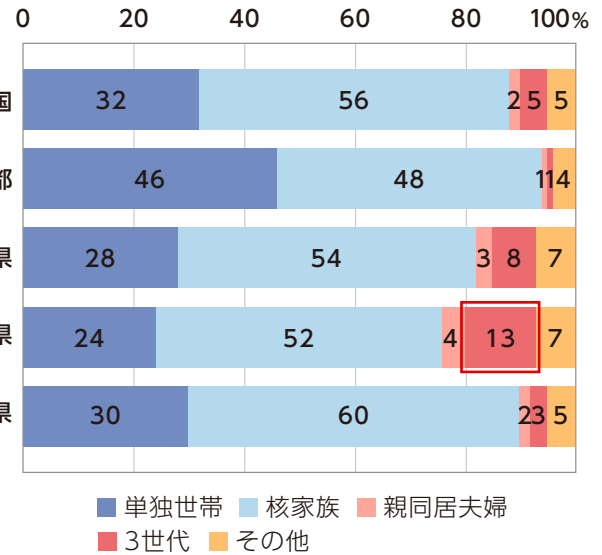
出典：H27年2月国勢調査人口推計速報値(総務省統計局)
H26年商業統計(経済産業省)

(図1)調査エリア



出典：H22年国勢調査(総務省統計局)

(図2)女性の労働力率



出典：H22年 国勢調査(総務省統計局)

(図3)家族タイプの構成比

「見える、リアル」を大切にする地方の若者たち

地方の若者たちがどんな暮らしをしているのか、家族や地域の人々とのつき合い、SNSの利用、普段の買い物などについて聞いてみたところ、どの項目にもある共通点がみえてきました。それは、彼らの生活は多くの「見える、リアル」がベースになっていることでした。

人づき合い

おばあちゃんのところに毎日のように人が来て、野菜などやりとり。見守られてる感じ。

(弘前・女子大学生)

年配の人がそばを作って振る舞う「そば会」に僕も何十年か後に入る。町内の人が好きだから面倒だとは思わない。

(福井・男子大学生)

中学の頃は地域のつき合いが面倒だったけど、今は祭にむけて太鼓を練習している。

(福井・男子大学生)



家族や地域の人々、友達との顔の見えるつき合いが基本

情報(SNSの利用)

インスタグラムは派手なキラキラした人がやるもの。Facebookよりもっとイケイケしてる。

(弘前・女子大学生)

家族とLINE。Twitter、Facebookの登録はしたけどほとんどやらない。

(弘前・男子大学生)

Facebookは面倒臭いからやらない。インスタは1週間前に落としたけど、見るだけ。

(福井・女子大学生)



SNSは主に見知った人とのコミュニケーションツールとして利用

買い物

ネットで見た洋服と同じものはないので、似たものをリアル店舗で探して購入する。
(弘前・男子大学生)

ネットは見るけど、友達と誘い合って、宮崎市(車で1時間)のショッピングセンターに行く。
(日南・女子専門学校生)

服はネットでは買わない。マネキン(見本)が大事。ああ、そうやって着るのねって。
(福井・女子大学生)



ネットで知らない物を買うよりも、実物を確認して購入したい

彼らは、家族3世代にわたるタテのつながり、さらに地域のイベントに参加するなどヨコのつながりを持ち、慣れ親しんだ人たちとのつき合いを大切にしていました。SNSについてもLINEやTwitterを友達との連絡ツールとして利用していても、FacebookやInstagram(インスタグラム)で自分たちの生活を発信することには積極的ではなく、顔の見えるつき合いが中心になっていました。また、買い物についてはネットはあまり利用していませんでした。実物を見ないで失敗するよりは、選べる商品が少なくても、1、2時間かけて家族や友達とショッピングモールに出かけ、実際に見て選びたいという気持ちが強いようです。

■ 堅実で安心感のある将来、そして引き継いでいく役割



青森は自分がとても居やすい場所。津軽弁は話しやすいし、聞きやすい。
(弘前・男子大学生)



都会は洗練されてるけど、地元の方が自分には身の丈にあった生活。
(弘前・男子大学生)



公務員のおじいちゃんに影響を受けた。県庁職員をやっていると、退職してからも地域の人との関係が続いて、いいなって思った。
(福井・男子大学生)



結婚して子供ができて、自分は仕事を続けて、子どもの面倒は親に見てもらいたいと思う。自分も小さい頃はおばあちゃんに面倒を見てもらった。
(福井・女子大学生)



家族と出かけることが多い。終電が9時半なので、部活で遅くなったら親に車で迎えに来てもらう。
(弘前・男子大学生)



自分の祖父母や両親など、身近にお手本のある、見通しが立つ堅実な将来。さらに、慣れ親しんだ土地で親しい人々に囲まれた安心感のある未来。でも、彼らが選んだのはそれだけではないようです。

車の送迎など家族の助けがあって今の自分があり、苦労して育ててもらったというおもい。今度は自分が返そう、多くの人のおもいを引き継いでここで暮らしていこうという意志がみえてとれました。家族や地域の人とのつながりを大切におもうからこそ、大人たちが行ってきたことを次は自分たちが引き継いでいく番である、という意識が自然に芽生えているようでした。

「見えるつながり」のある地方の暮らしから学ぶこと

若者たちに共通していたのは、「見えるつながり」を大切にしていることでした。見知った人に囲まれて、親と同じように生きていける、将来を見通せる堅実さ、そして安心感のある暮らし。変化はゆるやかですが、そこには東京とは違った「こころ豊かな暮らし」がありました。彼らはその中で居心地の良さを感じているようです。彼らのような地方の若者たちの暮らしぶりを知ることは、自分たちの暮らしや、地域とのつながりをあらためて見つめ直す、良いきっかけになるのかもしれない。



●お問い合わせ・ご意見は **花王株式会社 生活者研究センター**

〒131-8501 東京都墨田区文花 2-1-3 TEL. 03-5630-9963(月～金 9:00～17:00) FAX. 03-5630-9584

くらしの研究 <http://www.kao.co.jp/lifei/>

※掲載の記事・写真の無断掲載・複写を禁じます。